

2021年11月28日

ハドソン「超帝国主義」：著者との対話 1

2021年10月

The Gray Zone

[Super Imperialism: The economic strategy of American empire](#)

ハドソン「超帝国主義：アメリカ帝国の経済戦略」 著者との対話

マイケル・ハドソンは、「超帝国主義」の第3版を刊行した。

ここでは、中国とロシアに対する新たな冷戦、米ドルが支配的な金融システムから「多極化+ドル化された経済」への移行が論じられている。

この度はマックス・ブルーメンソールとベン・ノートンが、この本についてハドソンと語っている。

とくに第一次世界大戦以来、米国の経済覇権の戦略がどのように進化してきたかについて掘り下げた議論が展開されている。

このインタビューはYouTubeにアップロードされており、それを文字起こしたものである。(それを編集部で翻訳・抄出している)

.....
...

ベン： ハドソンは非常にユニークな思想家で、経済学だけにとどまらず仕事をしている。

今日は、出版されたばかりの「超帝国主義 第3版」について語っていきたい。

第1版はニクソンによるドル・ショックの1年後に書かれた。

第2版は20年前に出版された。それは帝国主義の新しい段階の始まりとも呼べるものだった。

今度の第3版は、最後の章に「新しい冷戦」が盛り込まれている。

これらを通じて、米国の超帝国主義システムの変化について語って欲しい。

ドル(米国債)支配体制の成立について

ハドソン： 米国は金を失ったが、ドル＝米財務省債を確保した。アメリカ以外の諸国は、これまでは金に縛られていたが、それからはドルに縛られるようになった。

諸国は余剰があれば米国債を買い、必要なときはそれをリサイクルした。

これによって軍事費は米国債から賄われ、ドルは減価した。ドルが各国によって買い支えられ、ドルの下落は収まったが、経済は過大評価されるようになった。

中国が望む、別の経済モデル

15年前に私は中国で働き始めた。中国政府は自分たちがどうすれば非ドル化できるか、さらにそれ以外の西側諸国から自立するかを真剣に考えていた。

彼らは中国と米国の間に競争があるとは見ていない。彼らの目標は競争での勝利ではなく、競争からの離脱である。

米国が到達した、非産業化(空洞化)と海外産業の支配は彼らにとって成功モデルではなく、回避されるべき教訓である。

米国では、市場が価格決定過程のすべてを支配し、価値や使用価値はますます価格に反映されなくなり、運営コストだけが上昇していく。中国は、そのような螺旋を回避しなければならないと考えている。必要なのはこのような高コスト国家ではなく、生産的経済を土台とする国家だ。

米国とドイツがかつて 19 世紀に行ったような生産的経済(産業資本主義)に復帰するつもりである。それは資本主義対社会主義などのイデオロギー的關係とは異なる視点だ。

そしてもう一つが混合経済モデルである。それは、基本的な公益事業を民営化するのではなく、補助金を提供することで低価格のプラットフォーム運営を実現するモデルだ。

結局これらの施策は新自由主義構造全体の拒絶にほかならない。

世界銀行と国際通貨基金の役割

私の言う「超帝国主義」とは、世界銀行と国際通貨基金を 2 つの柱とする世界経済システムだ。それは新自由主義に反対する諸政府の出現を阻止する働きを持っている。

世界銀行の機能は、第三世界の国々との南北問題を、資金の面から米国に依存させる仕組みである。

先進国は自国で食糧を栽培するのではなく、途上国に作らせる。そのために輸出農業、輸出プランテーション作物に資金を提供する。それは結局、途上国の主要産業である農業を、金融的に従属させることになる。

IMF の機能は、債務レバレッジを使用して他国に緊縮財政を強制することである。つまり、「あなたの政府が米国当局が好まないことをした場合、私たちはあなたの政府を管理する」と言うことだ。

それらは米国の一国主義的な支配の道具なのだが、国際組織と呼ばれ、米国が世界組織であるかのように装う。実際には、他国の農業と産業および商業の開発を歪め、米国の利益に奉仕するためのツールである。

世界政治の統御の仕方はもはや軍事的なものではなく経済的なものである。超帝国主義はいまや経済的かつ秘密裏に世界を政治支配するようになった。

しかしそれには膨大な軍資金が必要だ。それが 1971 年以來、米国債の購入という形で「預託」された外国の巨額の資金だ。

軍事的支配と財政的支配：超帝国主義の 2 つの側面

ベン：あなたは米国のやり方が、もはや軍事的支配ではなく、財政的だと言った。しかし私はそれがお互いを補強する同じコインの一種の両面だと思う。

米軍が今もなお世界の多くの地域を占領している。1945 年から日本、1950 年代から韓国、ドイツや他の多くの国に軍隊がいる。それらはどのように機能しているのか。

ハドソン：駐留費を払っているのは支払い余剰国、サウジでありドイツであり日本だ。

米国はベトナムでは一方的にお金を使った。現在近東や 800 の軍事基地でお金を使っている。これは米国の支配の仕方にかかわっているので、分けて考えなければならない。

80 年代の日本を見てみよう。1986 年に、国の財政赤字全体の 22 パーセントは日本によって補填された。

アメリカは言った。

私たちはあなたにどんな主要な会社も買わせるつもりはない。ロックフェラーセンターを購入すると、10億ドルを失うことになるでしょう。

日本が得たお金は米国財務省の国債に投資する必要があります。そうでなければ、私たちはあなたに懲罰的な関税を課し、あなたが嫌いなことをするつもりです。

覚えておくように。あなたは日本人です。あなたは私たちが育てた詐欺師であり、日本が社会主義にならないようにするのが努めです。

そして日本は、米国が指示したとおりに行動し、自動車と電子製品の利益を使って米国の貿易赤字と財政赤字を同時に賄った。

基本的に、アメリカは世界で唯一の力を持っている国だ。

アメリカはあなたの経済を破壊することができる。それでもだめならリビアやイラクのように見せしめを与えたり、引き裂いたりする事もできる。アフガニスタンのように見捨てることもできる。

それはアメリカにとって唯一の力だ。アメリカには経済力がない。生産性もない。競争力もない。しかし、私たちはあなたを破壊する力がある。そして私たちは、いつでもあなたを破壊する用意ができています。

米国が世界で唯一のスーパーパワーだということと、それが米国が持っている唯一のパワーだということとは、矛盾するように見える。

普通に考えれば、米国はお金を印刷するか、企業や人々に課税する必要がある。これを行うことができるのは、この軍事費のすべてを海外から回収する金融システムを持っているからである。